

地域公共交通網形成計画の評価指標の中間検証について

1 目的

江田島市地域公共交通網形成計画第7章（P. 39）において、「江田島市の地域公共交通を持続的に発展させるため、江田島市公共交通協議会において、継続的に「PDCAサイクル」による評価・検証を行います。」と明記しています。

計画4年目となる令和元年度においても、計画事業の評価及び検証を行うことにより、次年度以降の計画事業の実施の方向性を位置づけ、計画事業の効果的・効率的な実施を図ることを目的とします。

2 計画の取組状況

別紙1を参照

3 評価指標の達成状況

別紙2により、各評価指標の達成状況と、その理由（原因）について考えられるものを記載しています。

(別紙1) 江田島市地域公共交通網形成計画の取組状況

計画の目標	事業	取組事業	取組状況					
			28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	
目標1 最適な公共交通ネットワークの構築	①海上交通と陸上交通の連携強化	1 江田島市公共交通協議会での協議, 連携強化 2 ダイヤ改正時における相互調整や乗継案内の実施など 3 公共交通の利用促進イベント等の共同実施	おれんじ号協議	おれんじ号ダイヤ改正	おれんじ号ダイヤ改正	バス・船を含めた連携強化に向けた協議の実施		
			覚書締結	覚書運用開始				
					バス利用促進イベントの開催	他地区・他モードでの実施検討		
目標1 最適な公共交通ネットワークの構築	②路線バス(幹線・支線)系統やダイヤの見直し	1 利用者等のニーズを踏まえた効果的・効率的な系統やダイヤへの見直し	ダイヤ改正検討	バスダイヤ改正	効果的・効率的な系統やダイヤを検討実施			
		③おれんじ号の利便性向上	1 利用者等のニーズを踏まえた効果的・効率的な系統やダイヤへの見直し	ダイヤ改正検討	おれんじ号ダイヤ改正	おれんじ号ダイヤ改正	検討・実施・適宜見直し	
			2 利用者にとって利便性の高い乗降場所の検討	検討	林山上への乗入開始		地域住民や事業者の意見を参考に検討	
目標2 交通結節点における機能の向上	①乗換環境の充実	1 船舶, 車両などにおける乗継情報の提供	公共交通マップ作成	デジタルサイネージ運用開始				
		2 運行状況に関する事業者間の相互連絡体制の構築	覚書締結	覚書運用開始				
		3 バス中継ターミナルの動線の改善, 上屋等の設置			ターミナル機能強化の検討	営業所機能をゆめタウン周辺に移転		
		4 情報提供設備の整備	検討・整備	バスロケ・サイネージ運用開始				

計画の目標	事業	取組事業	取組状況				
			28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
目標3 利用環境の改善による利便性等の向上	①運賃負担感の軽減策の検討	1 路線バスにおける上限運賃制度	検討		適宜見直し		
		2 航路、路線バス、おれんじ号の相互間利用における乗継割引制度	検討、事業者協議	通学定期代補助制度（学割パス）の実施			
		3 商業施設等との連携した乗車券サービス制度			検討・実施・適宜見直し		
	②ICカードの導入	1 PASPY 導入の検討	検討、事業者協議			パスピー（江田島バス車両）導入	
③バリアフリー化の推進	1 船舶や車両、交通結節点などのバリアフリー化の推進	おれんじ号車両更新(2台)	バス車両更新(2台)	船舶や車両の更新の際に、バリアフリー化を推進			
④分かりやすい公共交通情報の提供	1 バス停や待合所での情報提供内容等の充実	検討・整備	バスロケ・サイネージ運用開始				
	2 携帯端末への情報の提供	検討・整備	バスロケシステム運用開始				
	3 わかりにくいバス停の名称変更	検討	名称変更実施	適宜見直し			
	4 公共交通マップの作成	検討、作成	配布	見直し配布	見直し配布	ダイヤ改正時に内容の見直し	
目標4 観光の強化による利用者の増加	①公共交通を活用した観光ルートの開発	1 航路と路線バスを活用した観光ルートの開発	航路と路線バスを活用した観光ルートを市HPに掲載		観光商品の情報発信力強化等、交通事業者との連携実施		

計画の目標	事業	取組事業	取組状況					
			28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	
	②観光客に向けた情報発信力の強化	1 インターネットを活用した情報発信力の強化 2 観光情報等の多言語化 3 ラッピング車両等の導入	観光パンフ作成(観光振興課)	観光ルート市HP掲載	観光部署との連携、ネット配信の検討等	観光パンフ作成(観光振興課)	BUSit 多言語対応, その他情報の多言語化検討	検討, 実施, 適宜見直し
目標5 地域で公共交通を支えるための意識の醸成	①公共交通の利用促進と地域との意見交換会の開催	1 公共交通の現状や課題に関する情報提供 2 各種行事や広報などを活用した公共交通の利用促進 3 地域で公共交通を支えていくための仕組みづくりの検討 4 利用者と交通事業者, 行政などの関係者による意見交換会の開催	利用者・行政との意見交換会の実施	市広報誌への連載記事の掲載	中学生への出前講座開催	バス利用促進イベントの開催	他地区・他モードでの実施検討	情報提供の方法を検討・実施 地域住民の機運醸成と仕組みづくりを検討 事業者を含めた意見交換会の開催の検討

(別紙2) 評価指標の達成状況

目 標	評価指標	計画策定時の 現状値 (H27)	現状値 (R1)	目標値 (R2)	成果と今後の課題
目標1 最適な公共交通ネットワークの構築	航路利用者の前年比減少率	▲4.2%(H26)	▲7.0%	▲3.5%以下	平成30年度は、前年比で1.6%増加（7月豪雨災害の影響）していたため、令和元年度の減少率が、より目立つ形となった。評価指標の達成に向けて、今年度、市内航路事業者と調整した上で航路のスタンプラリーを実施する予定である。
	路線バスの年間利用者数	70万人(H26)	49万人	70万人以上	前年度から約2万人の増となった。人口減少が続く中で、いかに利用者を獲得するかが課題となっている。
	おれんじ号運行見直し基準（稼働率）の目標を達成した系統の割合	50%(H26) (2系統/4系統)	50% (2系統/4系統)	75%以上 (3系統/4系統)	前年度と同じ割合。人口減少等に伴い利用者数も減少する中で、いかに新規利用者を獲得するかが課題。
目標2 交通結節点における機能の向上	乗換改善策の実施件数	—	1件	2件	市内航路事業者及び江田島バスと、乗継改善に向けた取組に関する覚書を締結した（H28）。ゆめタウン周辺におけるターミナル機能の強化（R1）。 令和2年1月末、バス車両に交通系ICカード（PASPY）を導入したことにより、今後より詳細な利用実績が把握できることから、公共交通事業者と調整を図りながら、路線再編の準備を進めていく。
目標3 利用環境の改善による利便性等の向上	負担感軽減策の実施件数	—	2件	2件	通学定期代補助制度の創設（H29）。江田島バスの車両に交通系カードIC（PASPY）を導入（R1）。
	バリアフリー車両の導入率	53.3% (8台/15台)	86.6% (13台/15台)	80.0%以上 (12台/15台)	前年度、江田島バスが車両3台を低床車両へ更新したため、目標が達成された。今後も必要に応じて、低床車両への更新を検討していく。 なお、評価指標の数値はバス車両のみだが、おれんじ号車両についても、2台をバリアフリー車両へ更新している。

	情報提供資機材の整備 件数	—	2 件	2 件	公共交通マップの作成及びバスロケシステム等の導入を実施。目標値に達したが、今後も必要に応じて検討していく。
目標 4 観光の強化による利用 者の増加	年間総観光客数	54 万人 (H26)	52 万人	70 万人	公共交通マップ及びバスロケシステム等を作成・導入した。バスロケシステムの導入により、バスのダイヤや遅延情報等が把握できるようになった (H29)。公共交通機関を利用した観光ルートを市HPに掲載した (H29)。Google マップで市内のバス情報が表示されるようになり、バスと船の乗継を含む経路検索が可能となった (R1)。前年度から観光客数は約 3 万人増加しているが、いかに観光客数を増加させるかが課題となっている。
目標 5 地域で公共交通を支え るための意識の醸成	意見交換会の開催件数	年間 2 回	延べ 9 回	延べ 10 回以上	年に数回、おれんじ号や航路等の利用促進を図るため、出前講座を開催している。 「地域で乗って守る」という機運をいかにして高めていくが課題となっている。
	地域が主体となった取 組の件数	—	2 件	2 件	バス利用促進イベントを江田島と大柿地区で開催。今年度も他地区での開催を予定する。